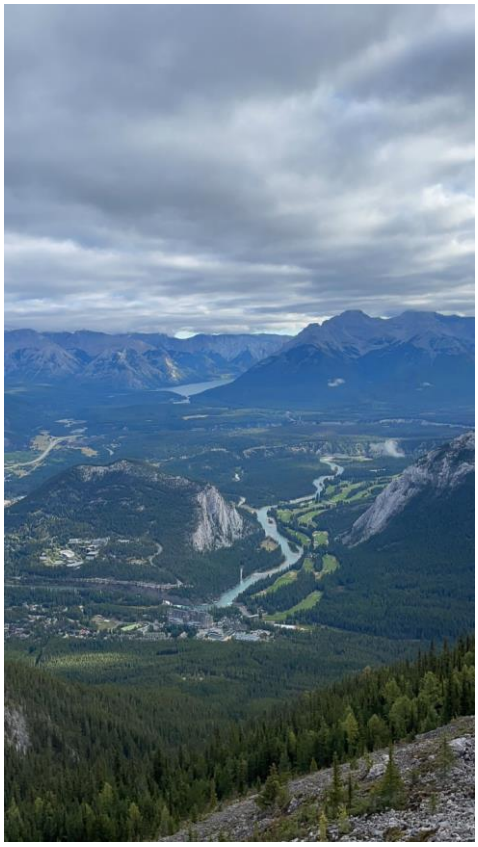
国際交流基金助成事業報告書

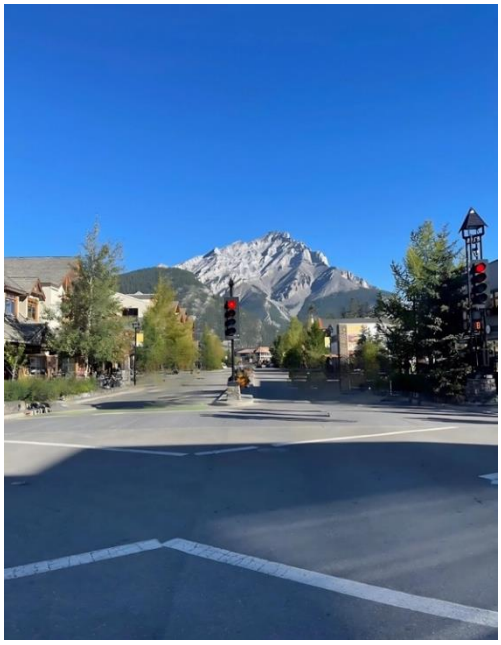
薬学部 6 年次　西本 偉武貴

1. はじめに

令和 6 年 9 月 15 日（日）から 9 月 18 日（木）までの 4 日間、カナダ・バンフで開催された International Association of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (IATDMCT) に参加し、「Elucidation of the mechanism of gefitinib-induced immune related adverse reaction and search for biomarkers to predict its pathogenesis」という演題でポスター発表を行いました。

初めての国際学会ということで、言語や文化の違いに対する挑戦も多かったものの、貴重な学びや刺激的な出会いが多く、非常に有意義な経験となりました。本報告書では、その経験と学びを報告します。





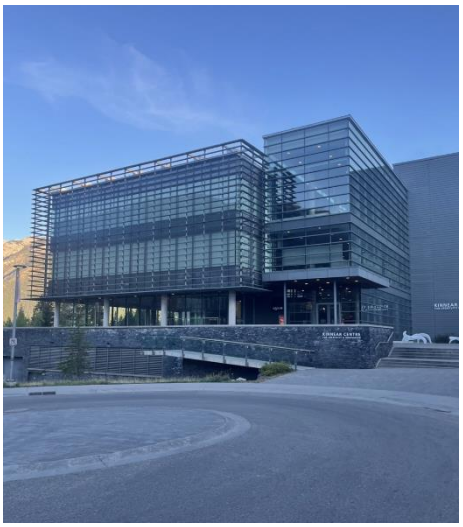
カナダ・バンフの景色（ロッキー山脈とダウンタウン）

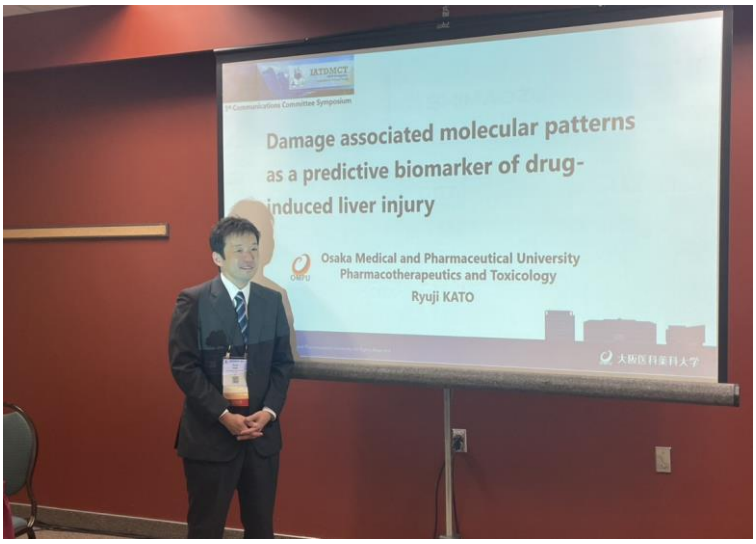
2. IATDMCT について

International Association of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology

(IATDMCT) は、Therapeutic Drug Monitoring (TDM) や臨床毒性学に焦点を当てた国際的な学会であり、世界中の研究者や専門家が集まり最新の研究成果や知識を共有しています。

今回の学会はカナダ・バンフで行われ、アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパ諸国、日本など、幅広い地域から参加者が集まりました。学会は研究発表の場としてだけでなく、国際的な交流の機会も豊富で、科学的知識の共有だけでなく、文化的な視点の違いについても学ぶことができました。





IATDMCT2024 の会場と開催中の様子

3. 学会について

学会全体を通して、TDM や薬物動態学に関連する最新の研究成果が多く発表されま

した。特に、学会初日のオープニングセレモニーは、参加者の熱気が感じられ、国際的なイベントならではのダイナミズムを体験しました。ネットワーキングイベントでは、異なる国の研究者たちとの直接的な交流の機会が多くあり、各国のアプローチや研究スタイルの違いを実感しました。日本とは異なる、非常にオープンでフレンドリーな雰囲気の中での交流は、私にとって新鮮で刺激的なものでした。

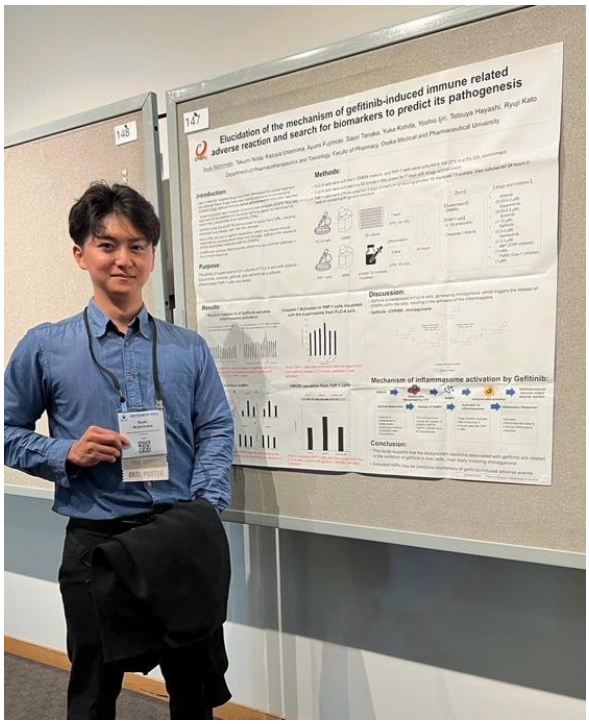
オープンセレモニーでの交流

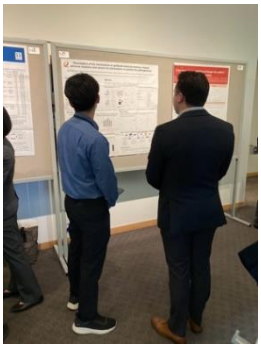
4. ポスター発表について

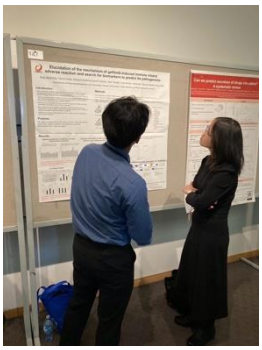
9 月 16 日に行われた私のポスター発表では、Gefitinib による免疫関連副作用のメカニズムを解明し、その予測に役立つバイオマーカーの探索に焦点を当てました。

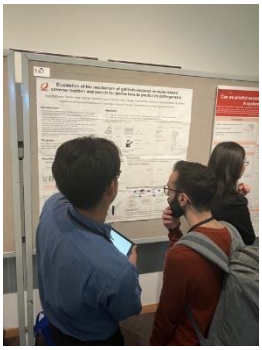
発表に際しては、事前にプレゼンテーションの練習を繰り返し行い、アクセントや表現方法についても綿密に準備しました。そのおかげで、発表自体はスムーズに進めることができ、研究内容も多くの参加者に理解してもらえたと感じました。しかし、

質疑応答では、質問者の意図を完全に汲み取ることが難しく、英語の聞き取りや即座の対応に課題を感じました。これにより、より高度な英語運用能力の必要性を強く認識し、今後のスキルアップに向けた動機づけとなりました。









ポスター発表の様子

5. Young Scientist プログラムについて

学会の Young Scientist プログラムは、世界中から集まった若手研究者たちが集い、活発な議論を交わす場として非常に有意義なものでした。

約 40 人の若手研究者たちとお酒を交えながら、各自の研究テーマや今後のキャリアについて自由に語り合いました。このプログラムを通じて、科学的な視野が広がった

だけでなく、同じ世代の研究者たちと共に歩むグローバルなコミュニティの一員としての意識が高まりました。

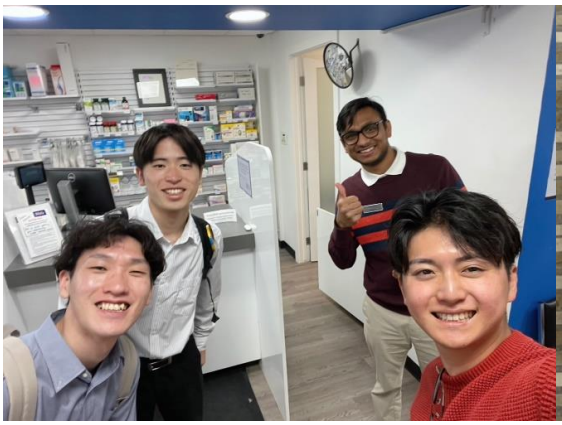
特に、幸運にもその夜、オーロラを観ることができ、その場にいた全員が感動を共有した瞬間は、忘れられない思い出となりました。

Young Scientist プログラムとオーロラ

6. バンフでの出会いについて

バンフ滞在中に友人が風邪を引いた際、現地の薬剤師に相談する機会がありました。薬剤師は、症状に合った的確なアドバイスを提供し、薬の選択肢を丁寧に説明してくれました。また、薬の選択以後の処置についても具体的に教えていただき、現地

での医療制度や薬局サービスの充実ぶりに驚きました。この経験を通じて、薬剤師としての専門知識や患者への対応の大切さを再認識し、将来の職業選択に向けた新たな視点が得られました。



現地の薬剤師の方と選んでいただいた薬

7.トロント大学にてディスカッション

学会終了後、トロント大学の Jack 教授と薬学部の学生とディスカッションを行う機会がありました。

彼らとの会話を通じて、異なる環境で学ぶ学生たちの考え方や視点に触れることができ、大いに刺激を受けました。研究やキャリアに対する姿勢が自分と異なることも多く、国際的な視野を広げる良いきっかけとなりました。

この交流を通して、今後の学びやキャリアに対する意識がさらに高まりました。

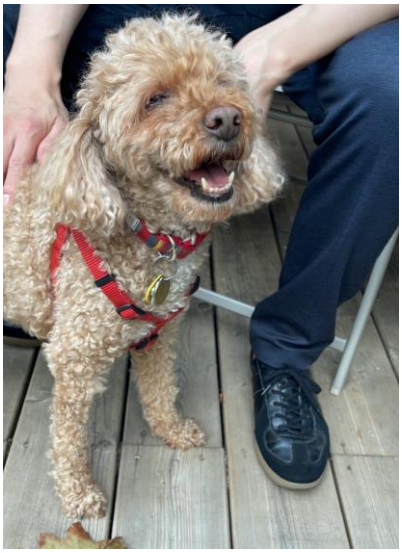
トロント大学でディスカッション後の集合写真

8.Jack 夫妻のおもてなし

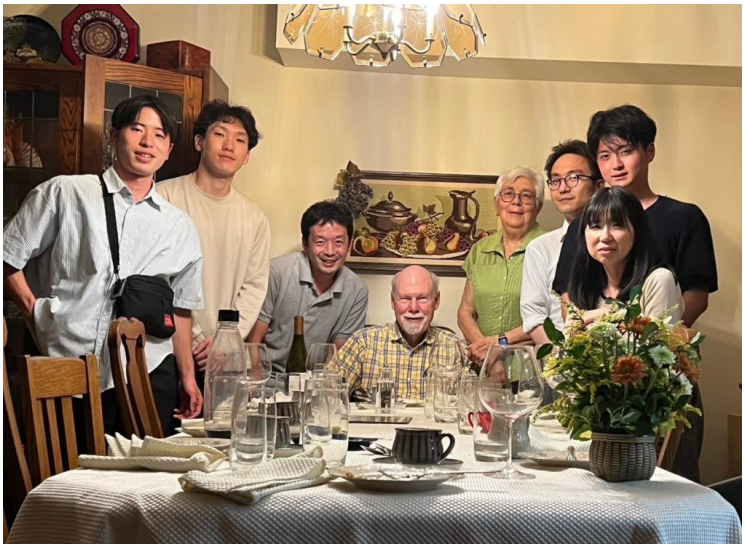
カナダ滞在中、日本人研究者の Jack 夫妻に自宅に招かれ、カナダの文化や生活習慣について教えていただきました。

夫妻の温かいおもてなしに触れ、異国での生活の一端を垣間見ることができました。こうした人とのつながりは、

学会参加を超えた大きな財産であり、今後も続けていきたい大切なご縁と感じました。



愛犬Ｍａｘ



おもてなし

全て Jack 夫妻の手作り

9. 交流を経て

今回の学会参加を通じて、国際的な研究交流の重要性を強く感じました。異なる文化や言語に触れることで、学術的な視野を広げることができました。

特に、日本の有名教授の先生方と直接お会いし、貴重なアドバイスをいただけたことは、大きな刺激となりました。また、カナダでの生活を通して、価値観や物事の捉え方が大きく変わり、これまでとは異なる広い視点で将来のキャリアについて考えられるようになりました。

学生 3 人組

10. 終わりに

この度、国際交流基金のおかげで IATDMCT2024 への参加が実現し、非常に貴重な経験を積むことができました。カナダでの経験を通して、学位取得や学会活動に対す

る視野が広がり、将来的には薬剤師としてだけでなく、国際的な研究者としても活躍するビジョンを描けるようになりました。

今後は、この経験を糧に、自分の目指すキャリアに向けて努力し続けていきたいと思います。このような機会をいただき、感謝申し上げます。